

音楽アーティスト科 ヴォーカルコース 受講科目一覧 1年次

ヴォーカル総合専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習Ⅰ（前期）	34	2	1
実習	分野別実習Ⅰ（後期）	34	2	1
講義	業界知識Ⅰ	72	2	4
演習	共同演習Ⅰ	68	2	4
講義	音楽理論/調音Ⅰ	68	2	4
講義	音楽史Ⅰ	68	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術Ⅰ	68	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術Ⅰ	68	2	2
実習	演奏/ダンス分野別基礎Ⅰ	68	2	2
実習	歌唱/演奏実技Ⅰ	68	2	2
実習	サウンドアナライズⅠ	68	2	2
演習	アンサンブル基礎Ⅰ	68	2	4
演習	アンサンブル応用Ⅰ	68	2	4
演習	アンサンブル発展Ⅰ	68	2	4
合計		888	28	40

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅠ		授業形態 / 必選	講義	必修		
	学則別表上表記	業界知識Ⅰ		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 全コース						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ☐	非該当 ☒
担当講師 実務経歴							
授業概要							
・音楽業界に関わる様々な業種について理解を深めることで、音楽業界の仕組みを学ぶ。							
到達目標							
前期では音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割とコンサート業界、レコーディング業界 の仕事内容について学びます。							
後期では音楽ビジネスに関わる権利、著作権、印税の仕組み、著作物について学びます。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽業界の仕組み① 音楽業界のお仕事～プロダクションの働きについて理解する 音楽業界の仕組み② レコード会社の働きについて理解する 音楽業界の仕組み③ 音楽出版社とJASRACの働きについて理解する
【前期】 4～7回目	イベント・コンサート業界の仕組み イベント・コンサートに関わる各セクションの仕事について理解する コンサート制作の仕事 イベントやコンサート制作会社の働きについて理解する コンサートスタッフの仕事 舞台監督や各業種の仕事内容について理解を深める コンサート関連の技術系の仕事の流れ PA・照明・ローディーの仕事の流れについて理解を深める
【前期】 8～10回目	業界用語と舞台用語 業界や現場で使われる用語を理解する 音源制作の仕事① CDが出来までの流れと楽曲発注について理解する 音源制作の仕事② プリプロ～レコーディングの流れを理解する
【前期】 11～13回目	音源制作の仕事③ マスタリングについて理解を深める 音源制作の仕事④ ジャケット制作について理解する 音楽ビジネスの現状 変化する音楽産業とミュージシャンの収入について
【前期】 14～17回目	ここまでのまとめとテスト 前期テスト テストの解説
【後期】 18～20回目	音楽ビジネスに関わる権利 ① ミュージシャンに関わる権利について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ② 著作権について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ③ 実演家とレコード製作者の両方に認められている権利について理解する
【後期】 21～24回目	音楽ビジネスに関わる権利 ④ 原盤について理解する 著作権管理事業の現状 著作権管理事業について理解する JASRACの問題点 JASRACの功罪などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み① CD販売の場合の著作権使用料による印税収入などについて理解する
【後期】 25～27回目	著作者に関わる印税の仕組み ② 動画投稿(共有)における著作権使用料などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み ③ 放送使用における著作権使用料について理解する 著作隣接権に関わる印税の仕組み アーティスト印税の計算などについて理解する
【後期】 28～30回目	著作権にまつわる問題点 インターネットの普及でばら撒かれる海賊版の氾濫などについて理解する 著作物を利用する方法① ビジネス契約と著作権～「所有権」と「著作権」について理解する 著作物を利用する方法② 著作物の自由利用について理解する
【後期】 31～34回目	ここまでのまとめとテスト 後期テスト テストの解説
評価方法	前期試験、後期試験とともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカルグループⅠ		授業形態 / 必選	演習	必修
	学則別表上表記	共同演習Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/ダンスヴォーカルパフォーマー				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀年気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画、への楽曲提供なども行なっている。				
授業概要					
多くの難易度の高い楽曲(GOSPEL・ミュージカル楽曲・POPS等)を通し、心の解放・ハーモニーへの理解、発声や歌唱法を学ぶ。 時にはリードボーカルのオーディションを行い、生徒同士で競争することによる技術向上を目的とする。					
到達目標					
・大人数の中で歌うために必要な知識や技術の習得。ハーモニー(ハモリ)を作ることの技術習得。					
・グループの一員としてステージに立ち、時にはchoirとして、時にはリードボーカルとしての歌唱法や立ち振る舞い、パフォーマンスを学ぶ。					
・ハモることへの不安がなくなる。					
・心を解放させ身体全体を使ってステージパフォーマンスができる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	パート分け(女子2パート、男子2パート) 1曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【前期】 4～7回目	2曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定 1曲目とともにLIVE WEEKに向けてパフォーマンス込みで練習。
【前期】 8～10回目	3曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定 1曲目とともにLIVE WEEKに向けてパフォーマンス込みで練習。
【前期】 11～13回目	4曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【前期】 14～17回目	前期まとめ (1～4曲目の復習) ■前期試験:課題曲の歌唱により「歌唱技術 / ハーモニー / パフォーマンス / チームワーク」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	5曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 21～24回目	6曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 25～27回目	7曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 28～30回目	8曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 31～34回目	過去にやった曲の中からLIVE WEEKに向けて選曲、復習、パフォーマンス込みで練習 ■後期試験:課題曲の歌唱により「歌唱技術 / ハーモニー / パフォーマンス / チームワーク」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「歌唱技術 / ハーモニー / パフォーマンス / チームワーク」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	グループボーカルを経験することにより、ハーモニーに対する不安感を拭えます。また、普段は聴かないようなGOSPEL等を聴くことにより、リズム感や発声法を学ぶこともでき、大人数で声を出すことにより、心の解放や私たちの声を持つパワーを直接感じることもできます。この授業を通して様々なジャンルに触れ、多くのことを学びきっかけにしましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	セオリー＆イヤートレーニング ピッチワークアウトⅠ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論／調音Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/ダンスヴォーカルパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	KAN、浜崎あゆみ、林原めぐみなど様々なアーティストのバックコーラスやレコーディング制作に携わる。 23歳の時にアニメセイバーマリオネットact5エンディング「風の詩を聴きながら」でメジャーリリース。 その後ヴォイストレーナーとして多数アーティスト(元生徒はDAIGO、太田在etc)の指導を行う。 近年はハウスバンド歌手として毎週末stage歌唱10年、DISCO DJうらりーな活動2年、演劇ミュージカル出演活動5年。				
授業概要					
音楽の基本的な決まり事を学ぶ「理論」と、音感を鍛える「聴音」の授業です。 理論では正確に楽譜を読み書きする能力を得ること、作曲の為の基礎知識を養うこと、音楽用語の意味を学びます。聴音では音程やリズムを耳で聴き取り、演奏や譜面におこなうことができる能力を得ます。 また、様々なジャンルの音楽の基礎知識を学ぶことにより、音楽人に必要な力も養います。					
到達目標					
・楽譜の読み書きができるようになります。 ・楽器を使わずに、耳だけで音程(音の高低)やリズムを聴き取れるようになります。 ・音楽用語を使用し、他楽器(バンドメンバー)とのコミュニケーションを可能にします。 ・インターバル、スケール、ハーモニー、コード、リズム、におけるベーシックが把握できます。 ・曲の構成を理解して、メロディとコードの関係を深く理解できます。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ウォーミングアップ発声、音符と休符、リズムのトレーニング、メジャースケール。
【前期】 4～7回目	インターバルの紹介、読譜。
【前期】 8～10回目	テンポとリズム、ブレスのメカニズム、音域チェック、FメジャーキーとGメジャーキー。
【前期】 11～13回目	ハモリ、123メロディー発声、タイと付点子音。
【前期】 14～17回目	歌と発声、5度圏、聴き取り(イヤトレ)、ハモリ練習。 ■前期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	1234メロディー発声、16分音符リズムトレーニング、ロングブレス。
【後期】 21～24回目	ピッチトレーニング、数字インターバル、ハモリ練習。
【後期】 25～27回目	12345メロディー発声、リズムチェック、サイエンステスト。
【後期】 28～30回目	ピッチトレーニング復習、インターバル、ハモリチェック。
【後期】 31～34回目	ヒット曲のメロディアナライズ。 ■後期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	理論をマスターして「なぜカッコ良いのか」「どうしてグッと来るのか」といったことが分かってくると、「気持ちをこめる」だけでなく「気持ちを伝える」表現豊かな音楽ができるようになるでしょう。 また、なんといってもミュージシャンは耳が命です。音楽からいろんなアイデアをキャッチできるようになりましょう。 他にも、理論や聴音を学ぶことは、今後の歌唱・演奏や作曲の手助けになるにもなります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムヴォーカルの歴史と体系Ⅰ		授業形態 / 必選	講義	選択	
	学則別表上表記	音楽史Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀年気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画、への楽曲提供なども行なっている。					
授業概要						
・ヴォーカルの為のリズムトレーニング、身体づくり、リズムの歴史を学ぶ。(リズム史＝POPS音楽史) ・ヴォーカルに活かすためのリズム発声～アドリブスキットまで。						
到達目標						
・漠然と歌のメロディーを歌えるのではなく、頭と体でリズムを理解し、コントロールできるテクニックを身に着ける。 ・ジャンルごとのリズムの特徴を学び、歌いまわしのクオリティを上げる。 ・体全体でリズムをキープしながら、瞬時にいかなるヴォーカルアプローチも出来るようになる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽の歴史【ROCK】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【前期】 4～7回目	音楽の歴史【R&B】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【前期】 8～10回目	音楽の歴史【REGGAE】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【前期】 11～13回目	音楽の歴史【MIXTURE】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【前期】 14～17回目	応用編【スキット】スキットとは、リズムのフィールを感じ取り声で表す、コール&レスポンス ■過去前期試験例：筆記試験にて「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	音楽の歴史【BLUES】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【後期】 21～24回目	音楽の歴史【FUNK】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【後期】 25～27回目	音楽の歴史【SOUL】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【後期】 28～30回目	音楽の歴史【JAZZ】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【後期】 31～34回目	1年間トータル復習・確認 ■過去後期試験例：筆記試験にて「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音楽のジャンルについて学んでいく中で、その音楽の成り立ちを知ろうとすると、歴史や時代背景を知る、ということにつながっていきます。リズム強化のための授業ですが、様々なジャンル、歴史について触れ、知ることで価値観も磨いていきます。価値観は表現力につながっていきます。様々な観点から歌唱力向上を目指していきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカルテクニックⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	R&B,POPSのソロアーティストとして九州、東京を拠点に活動。 ミニアルバム“Darkness into light”をリリースし様々なステージに立つ。 ヴォーカルディレクターとして楽曲提供や様々なアーティストのレコーディングに参加。 プロシンガー・アイドル・KPOP養成所などで講師を勤めている。				
授業概要					
発声のメカニズムを理解し、歌唱に必要なテクニックにつなげる。					
到達目標					
・チェストボイス、ヘッドボイスなど声色それぞれの基礎発声を身につける。 ・発声のメカニズムを理解した上での基礎発声練習を積み重ね、声域を広げる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	教科書使用(ボイス理論1～4)チェスト開発
【前期】 4～7回目	教科書使用(ボイス理論5～8)チェスト開発
【前期】 8～10回目	教科書使用(ボイス理論9～12)ヘッド開発
【前期】 11～13回目	教科書使用(ボイス理論13以降)ヘッド開発
【前期】 14～17回目	教科書使用(ボイス理論まとめ) ■前期試験:課題曲の歌唱により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の到達度、理解度を確認する。
【後期】 18～20回目	チェストとヘッドのバランス／共鳴作り
【後期】 21～24回目	チェストとヘッドのバランス／共鳴作り
【後期】 25～27回目	ミドルボイス開発
【後期】 28～30回目	ミドルボイス開発
【後期】 31～34回目	基礎発声練習(ミドルボイスの開発・定着) ■後期試験:課題曲の歌唱により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	テクニックだけが大事なものではありませんが、そのテクニックへの理解を深めることにより自由な表現への足がかりとなります。思考のパターンをプロ仕様へと改変していきましょう。
備考	使用教科書「ヴォーカルテクニック」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォイストレーニング I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/ダンスヴォーカルパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀年気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画、への楽曲提供なども行なっている。				
授業概要					
ヴォイストレーニングを通し、正しい発声の仕方、音域の拡張、共鳴のさせ方を学習していきます。 ウォーミングアップの方法・腹式呼吸の習得・表情筋の使い方・母音を正しく響かせる口の開け方など。 また、歌唱の基礎であるチェストヴォイス～ミックスヴォイス～ヘッドヴォイスの声区融合とリズム感も併せて学習します。					
到達目標					
・ストレッチ、筋カトレーニングにより、歌える体を作っていく。 ・様々なスケールを用い、主にチェストヴォイスを鍛えて地声強化。 ・ヘッドヴォイスを学ぶことで、響く声、共鳴を身に付ける。 ・様々な声色(チェストヴォイス、ミックスヴォイス、ヘッドヴォイス)を習得し、歌唱へ反映させていく。 ・相対音感トレーニングにより、音感を高めていきます。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ウォーミングアップ編 ～発声に入る前の準備運動～ / ストレッチ・筋トレ・リップロール・ハミング
【前期】 4～7回目	地声、低音強化編 ～地声強化のための発声練習法の取得～ / 喉を開くということ、声帯の動き、体の使い方
【前期】 8～10回目	地声、低音強化編 ～地声強化のための発声練習法の取得～ / 喉を開くということ、声帯の動き、体の使い方、リズムトレーニング
【前期】 11～13回目	裏声、ミックスヴォイス強化編 ～裏声強化のための発声練習法の取得～ / 声の種類について、息のコントロール、後ろ側の響きと前側の響き
【前期】 14～17回目	反復練習 / 地声強化のための課題曲（発声に意識して歌唱してみる） ■過去前期試験例：筆記、発声の実技試験により「練習メニューの理解度、取得度」から到達点を確認する。
【後期】 18～20回目	喚声点攻略編 ～喚声点が見えにくくなるための発声練習法の取得～ / 声の種類について、共鳴移動、声のコントロール
【後期】 21～24回目	喚声点攻略編 ～喚声点が見えにくくなるための発声練習法の取得～ / 声の種類について、共鳴移動、声のコントロール
【後期】 25～27回目	反復練習 / 共鳴移動のための課題曲（音域の広い楽曲の選曲し歌唱の中で共鳴移動を実践する）
【後期】 28～30回目	応用練習 / 様々な声色のための課題曲（別の音域を複数人で歌うことで相対音感も養いつつ、美しいハーモニーに必要な声色で歌唱してみる）
【後期】 31～34回目	総合的反復練習 / 各自課題曲（発声に意識して歌唱してみる） ■過去後期試験例：各自指定された楽曲を歌唱。「総合的な完成度」から到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の3項目の到達度、理解度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	発声とリズムは歌唱の基礎で最も重要な技術です。発声練習は自分の声質を把握し、より良くしていくために欠かせません。チェストヴォイス(地声)の音域はトレーニング次第で伸ばすことができます。高く歌えないと思っていた楽曲でもトレーニング次第で歌えるようになります。また、裏声や低音域をしっかりと鍛えることで、歌唱の中で使える音色を多く習得することが可能です。自分の音域や癖をしっかりと把握しトレーニングに励み、歌える楽曲の幅を広げましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	アコースティックギター		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	演奏/ダンス分野別基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	専門学校ESPエンタテインメント福岡を卒業後、同校の演奏アシスタントを経て講師としてギターの演奏技術や知識を教える。ESPguitarsのモニターアーティストを務め、福岡のアーティストを中心にライブやレコーディングサポートギタリストとして活動する。				
授業概要					
アコースティックギターの仕組み、奏法、コード、スケール、音楽理論等を学びます。					
到達目標					
アコースティックギターの演奏技術を習得し、演奏内容をロジカルに把握出来るようになり、自分を表現する際に活かせるようになること。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	アコースティックギターに実際に触れ、慣れ親しむ。各部名称の把握、チューニングの方法など。8ビートの基本的なストロークの習得。オモテとウラに対応するストロークの理解。
【前期】 4～7回目	16ビートの基本的なストロークの習得。シャッフルリズムのストロークの習得
【前期】 8～10回目	ピックを使ったアルペジオを理解し習得。指弾きでのアルペジオを理解し習得。実際によく使われる伴奏パターンの習得。
【前期】 11～13回目	スリーフィンガー奏法の理解と習得。親指で低音リズムをキープすることを基本に展開し最終的な習得を目指す。
【前期】 14～17回目	前期のまとめとおさらい 前期試験:課題曲の演奏により「コードストローク/アルペジオ/スリーフィンガー」と知識の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	音のインターバルとスケールの理解を深めギターに落とし込む。
【後期】 21～24回目	音のハーモニーを知りコードの理解を深めギターに落とし込む。ダイアトニックコードを知る。
【後期】 25～27回目	曲やコード進行を用いて、コードとスケールの関係を体系的に理解し、ギターに落とし込む。
【後期】 28～30回目	アドリブでギターを弾くことを体感する。
【後期】 31～34回目	後期のまとめとおさらい 課題曲を通してこれまでに習得した事を確認し、その結び付きを体感する。 後期試験:課題曲の演奏により各奏法及び音楽理論及び知識の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「コードストローク/アルペジオ/スリーフィンガー/ボサノバ奏法/SSW系奏法/ブルースギター奏法/ラグタイムギター奏法」の7項目の到達度、理解度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アコースティックギターは1本でも成立する楽器なので、アンサンブルの規模を問わず使いやすい楽器です、音楽活動する上で、みなさんの可能性を広げてくれるファクターになると思います。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	キーボード		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	演奏/ダンス分野別基礎 I	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■ 音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	幼少の頃から本格的にクラシックピアノを20年間学び、コンクール等で多数受賞。 現在は自身で作詞作曲をジャンル問わず行いながら、鍵盤などで多くの演奏サポートや制作に携わる。 これまでに発表した作詞・作曲作品、またアレンジした楽曲は80曲以上ある。					
授業概要						
コード(和音)について理論的に学び、様々なコードやリズムパターンを覚える。						
到達目標						
・キーボードに触ることに慣れ、コードネームだけで鍵盤で伴奏できるようになる。 ・初見でコード譜を見て、一度曲を聞いたら弾けるようになる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	鍵盤の位置を覚えてドレミを弾いてみよう(運指) 【理論】スケール (Major, minor) コードについて (Major, minor) 【理論】コードの構成を覚えたら、弾いてみよう (C G F Am) 【Let it be】
【前期】 4～7回目	【実践】左手を使ってみよう 猫踏んじやつた 【理論】曲を弾いてみよう (C G F Am) 【Let it be】
【前期】 8～10回目	【実践】曲を弾いてみよう (C G Em Am D B Bm) 【上を向いて歩こう】 【理論】おしゃれコードについて (トライアド、7th, sus4など) 【実践】上を向いて歩こう Bメロ込み
【前期】 11～13回目	【課題曲】実際に課題曲を用いて様々なテクニックを学ぶ
【前期】 14～17回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見ながら弾いてみよう ■前期試験: 課題曲の演奏により「リズム / コード(和音) / 演奏力 / 理解力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見ながら弾いてみよう
【後期】 21～24回目	【課題曲】コード譜をもとにサイズ譜を作ってみよう(小節の数え方、繰り返し記号の書き方など、基本的な採譜に必要な知識の習得)
【後期】 25～27回目	【自由曲】好きな曲を、サイズ譜を作成しメロディーラインとともに弾いてみよう
【後期】 28～30回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見てメロディーラインとともに弾いてみよう
【後期】 31～34回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見てメロディーラインとともに弾いてみよう ■後期試験: 課題曲の演奏により「リズム / コード(和音) / 演奏力 / 理解力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / コード(和音) / 演奏力 / 理解力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	キーボードを演奏するには、まずキーの概念や和音の構成など簡単な音楽理論を理解することが必要です。また、左手ではベースラインでリズム感を出し、右手で和音を出していきます。最初は左右違う動きをすることやコードを覚え瞬時に和音を抑えるのに手こずるかもしれませんが、いつのコードだけで弾ける簡単な曲から始めていきますので安心してください。コード譜があれば伴奏できる・弾き語りができるレベルまで頑張りましょう。
備考	参考書「ピアノコード表」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	コーラスラインⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	歌唱/演奏実技Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	これまでCMへのオリジナルソングの提供、ラジオ、ドキュメンタリー番組等に出演。 その後渡米し現地ミュージシャンとセッションを重ねる。 福岡、東京にて音楽イベントに多数出演。動画制作への楽曲提供なども行う。ピアノでの受賞経験も多数。 メジャーアーティストへのレッスン提供や、後進の育成にも励みデビューした生徒も多数。					
授業概要						
この授業では学生達が声楽技術を身につけハーモニーを理解し、コーラスワークに対する技術・知識の習得を行います。 複数人でメロディーを歌唱する際の耳と発声を磨き、アンサンブル歌唱のスキルを向上させます。						
到達目標						
・ハーモニーの概念を理解し、他歌手との調和を築く為の技術を習得。 ・音を聴き分ける能力を養い、和音や度数を理解してハーモニーを歌唱出来る様になる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ユニゾン・スケール・3度ハモリからのコードトレーニング(M・m・sus4) 課題曲①邦楽パート音入れ
【前期】 4～7回目	ユニゾン・スケール・5度からのコードトレーニング(aug・dim・add9)・楽曲Keyチェンジ対応 課題曲①
【前期】 8～10回目	オクターブ発声・楽曲分析(小節・プレス・アクセント・ポルタメント)・コードトレーニング(△7・7) 課題曲②洋楽パート音入れ
【前期】 11～13回目	母音・子音歌唱・ペア練習 トランスポーズ対応トレーニング・8ビート・16ビート 課題曲②
【前期】 14～17回目	前期テスト対策。 ■前期試験:発声に関する用語、仕組み、ハーモニー、リズムの到達度の確認。
【後期】 18～20回目	イントネーション・コード進行の理解～アドリブ・フェイク練習 課題曲③パート音入れ
【後期】 21～24回目	シャッフル・イーブン・グルーブ チェスト・ミドル・ヘッドヴォイス確認 課題曲③
【後期】 25～27回目	楽曲の1フレーズを3拍子・4拍子で歌唱・スケール・コードトレーニング 課題曲④発音
【後期】 28～30回目	それぞれの表現・抑揚と発音 歌いまわしと音の重なり 課題曲④
【後期】 31～34回目	通年のまとめ。発声、即興、ハーモニー、リズムの到達度の確認。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「発声に関する用語、仕組み/発声 / リズム」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ソロパフォーマンスでは習得出来ないヴォーカルグループで作り出すハーモニーを体感していきます。 同時にGt.Key.Baで演奏するコードを声で体感していきます。リードボーカルでの役割と支えになるコーラスの役割を経験し、グループでの表現やパフォーマンスを学んでいきましょう！
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	歌唱実習Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅠ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ダンスヴォーカルパフォーマー					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	R&B,POPSのソロアーティストとして九州、東京を拠点に活動。 ミニアルバム『Darkness into light』をリリースし様々なステージに立つ。 ヴォーカルディレクターとして楽曲提供や様々なアーティストのレコーディングに参加。 プロシンガー・アイドル・KPOP養成所などで講師を勤めている。					
授業概要						
バラードやアップテンポといったテーマに合わせて自分で選んだ曲を歌い、 自分が歌うだけでなく、他者の歌唱を聞いて、見て、【歌う】【聞く】【考える】のサイクルで授業が進んでいきます。 自ら選んだ楽曲を歌いこみながらテクニックをきめ細やかに、また感情表現をより深めながらシンガーとしての自らをワークショップスタイルの中で 確立していきます。						
到達目標						
自ら選曲した一つの楽曲の中で、音程、リズム、などの観点から『基礎的な技術』を、ダイナミクス、魅せ方(パフォーマンス)などの観点からは『技術的な表現力』の取得をしていきます。そこに、同じ楽曲を数週間歌い続けていく中で考察し、深めた、その楽曲への自分的解釈を足すことで『自分の歌』にできるシンガーを目指します。 また、自分の歌唱を客観視できるようになるため、他者の歌を分析することで、聞く力、気づききっかけを養っていきます。 ここで得た『歌唱力』を用いて「人に届く歌」が歌えるようになること、それが「オーディションで結果を出す」「ライブでお客様に楽しんでもらう」へと繋がるように サポートしていきます。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【自由曲①(得意ジャンル)】持ち味、武器となる部分を見つけていきます。
【前期】 4～7回目	【自由曲②(苦手ジャンル)】苦手な分野にトライす、苦手克服を目指します。
【前期】 8～10回目	【自由曲③(ジャンルレス)】ジャンルに囚われず、今、自分にとって必要な要素を取得することを目的として選曲していきます。
【前期】 11～13回目	【自由曲④(完全自由曲)】ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。
【前期】 14～17回目	【自由曲(アドバイスの必要な楽曲)】テストに向けた候補曲や、LIVE WEEKでの歌唱曲など、今アドバイスが欲しい楽曲を選曲します。 ■過去前期試験例:(ジャンルのみを指定)課題曲の歌唱により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【自由曲⑤(洋楽)】言語の壁はもちろんのこと、リズムや表現方法などが全く日本の楽曲と異なります。どんなジャンルでも歌えるシンガーになるために様々な楽曲への歌唱のアプローチ法を考察します。
【後期】 21～24回目	【自由曲⑥(洋楽)】言語の壁はもちろんのこと、リズムや表現方法などが全く日本の楽曲と異なります。どんなジャンルでも歌えるシンガーになるために様々な楽曲への歌唱のアプローチ法を考察します。
【後期】 25～27回目	【自由曲⑦(完全自由曲)】ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【後期】 28～30回目	【自由曲⑧(完全自由曲)】一年間の集大成となるような難易度の曲を選曲します。憧れていたけど歌ってこなかった曲、自分にとって少し難易度の高い曲を選ぶことで現在地を確認する。
【後期】 31～34回目	【自由曲(①～⑧より選択)】これまで歌い込んできた曲をもう一度歌うことで、前期の自身と比べることができ、より深く自身の歌唱力と向き合っていきます。■過去後期試験例:自由曲の歌唱により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	歌うことを職業にしていくなめには、技術は絶対に必要になってきます。この技術を取得し続けるためには、自分で課題を見つけ、自分で課題を解決していく力を身につける必要があります。その一連の流れが一人で行えるようになるための練習をこの授業の中で学んでいきます。 まずは気づくこと。知ること。そこから始めていきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブスタイル実習Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀年気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画、への楽曲提供なども行なっている。				
授業概要					
課題曲に内包されているテクニック、リズム、ハーモニーなどの類例を自らの経験値として取り込みながらバンドアンサンブルについて理解を深める。 3週で楽曲が変更。ライブイベントへ向けてのリハーサルも兼ね、パフォーマンス力、ステージング力の向上をもはかっていく。					
到達目標					
・ボーカルだけでなく各楽器(Gt. Ba. Dr.)とのアンサンブルを学ぶ。					
・曲の理解、バンド内のコミュニケーション、ボーカル以外の音の聴き方、リズムの取り方など					
・楽器の音、バンドアンサンブルにおける自分の音をしっかりと聞き分け、音楽の楽しみ方を学び、					
・バンドとして一つの音を奏で、パフォーマンスも含めアンサンブルにつなげる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	1曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 4～7回目	2曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 8～10回目	3曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 過去3曲の中からLIVE WEEKIに向けてチーム決定。
【前期】 11～13回目	LIVE WEEKIに向けてパフォーマンスやクオリティーを上げるためのリハーサル週間
【前期】 14～17回目	4曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 ■前期試験：課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	5曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 21～24回目	6曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 25～27回目	7曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 28～30回目	8曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 後期4曲の中からLIVE WEEKIに向けてチーム決定。
【後期】 31～34回目	LIVE WEEKIに向けてパフォーマンスやクオリティーを上げるためのリハーサル週間 ■後期試験：課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アンサンブルは音楽活動をするうえで避けては通れない技術になります。楽曲の理解、バンド内コミュニケーション、全体のサウンドにおける自分の歌の位置づけを知ることは歌のクオリティーを上げるために非常に重要なことです。ボーカル以外の楽器の音を聴き分けることもアンサンブルを到達させるために必要になります。この授業を通して、楽曲の聴き方、音楽のより深い楽しみ方を学び、人と人とが奏でる音楽・アンサンブルに繋がっていきます。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブパフォーマンス実習Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択	
	学則別表上表記	アンサンブル応用Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀年気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画、への楽曲提供なども行なっている。					
授業概要						
課題曲に内包されているテクニック、リズム、ハーモニーなどの類例を自らの経験値として取り込みながらバンドアンサンブルについて理解を深める。 3週で楽曲が変更。ライブイベントへ向けてのリハーサルも兼ね、パフォーマンス力、ステージング力の向上をもはかっていく。 ※アンサンブル基礎Ⅰの二コマ目として実施						
到達目標						
・ボーカルだけでなく各楽器(Gt. Ba. Dr.)とのアンサンブルを学ぶ。						
・曲の理解、バンド内のコミュニケーション、ボーカル以外の音の聴き方、リズムの取り方など						
・楽器の音、バンドアンサンブルにおける自分の音をしっかりと聞き分け、音楽の楽しみ方を学び、						
・バンドとして一つの音を奏で、パフォーマンスも含めアンサンブルにつなげる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	1曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 4～7回目	2曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 8～10回目	3曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 過去3曲の中からLIVE WEEKに向けてチーム決定。
【前期】 11～13回目	LIVE WEEKに向けてパフォーマンスやクオリティを上げるためのリハーサル週間
【前期】 14～17回目	4曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 ■前期試験：課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	5曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 21～24回目	6曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 25～27回目	7曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 28～30回目	8曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 後期4曲の中からLIVE WEEKに向けてチーム決定。
【後期】 31～34回目	LIVE WEEKに向けてパフォーマンスやクオリティを上げるためのリハーサル週間 ■後期試験：課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アンサンブルは音楽活動をするうえで避けては通れない技術になります。楽曲の理解、バンド内コミュニケーション、全体のサウンドにおける自分の歌の位置づけを知ることは歌のクオリティを上げるために非常に重要なことです。ボーカル以外の楽器の音を聴き分けることもアンサンブルを上達させるために必要になります。この授業を通して、楽曲の聴き方、音楽のより深い楽しみ方を学び、人と人とが奏でる音楽・アンサンブルに繋がっていきます。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカリストスタイルⅠ		授業形態 / 必選	演習	選択	
	学則別表上表記	アンサンブル発展Ⅰ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀年気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画、への楽曲提供なども行なっている。					
授業概要						
様々な音楽スタイル(JAZZ/BLUES/POP/R&B/FUNK/HR等)に含まれるリズム感、グルーブ感、抑揚などを自然に体で表現できるように自らの歌唱へ取り込んでいきます。						
到達目標						
・ノリ、アクセント、より体感するための体の動かし方を身につける。 ・リズムを理解し、楽曲と自身がグルーブする感覚を取得することで、自由度の高いライブパフォーマンスを身につけていく。 ・リズムとプレスコントロールを結びつけることで、歌いやすさへつながり歌唱力向上を目指します。 ・多様なジャンルのルーツ、歴史を理解し、価値観を磨くことで表現力の幅と可能性を広げていきます。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	課題曲①【ROCK】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【前期】 4～7回目	課題曲②【R&B】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【前期】 8～10回目	課題曲③【レゲイ】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【前期】 11～13回目	課題曲④【ミクスチャー】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【前期】 14～17回目	トータルチェック(これまでの課題曲で培った「発声・リズム・表現力・ポイント」を確認する) ■前期試験:課題曲の歌唱により「音程/リズム/ダイナミクス/表現力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	課題曲⑤【ブルース】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【後期】 21～24回目	課題曲⑥【FUNK】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【後期】 25～27回目	課題曲⑦【ソウル】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【後期】 28～30回目	課題曲⑧【JAZZ】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【後期】 31～34回目	トータルチェック(これまでの課題曲で培った「リズム・グルーブ・表現力・ポイント」を確認する) ■後期試験:課題曲の歌唱により「リズム/ダイナミクス/表現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程/リズム/ダイナミクス/表現力」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音の高低(音階)/声を出すタイミング(リズム)で成り立つ歌。半分をしめるリズムについて、ヴォーカリストの観点で大切な要素を学びましょう。リズム感というものは、パフォーマンスだけでなく、歌の歌いやすさへつながっていきます。しっかりと理解としかりと体を動かしながらの実践を何度も繰り返すことで力がついていきます。めげそうになる瞬間もあるかもしれませんが、コツコツとやっていきましょう。
備考	

音楽アーティスト科 ヴォーカルコース 受講科目一覧 1年次

ネットシンガー専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習Ⅰ（前期）	34	2	1
実習	分野別実習Ⅰ（後期）	34	2	1
講義	業界知識Ⅰ	72	2	4
演習	共同演習Ⅰ	68	2	4
講義	音楽理論/調音Ⅰ	68	2	4
講義	音楽史Ⅰ	68	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術Ⅰ	68	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術Ⅰ	68	2	2
実習	DAW・DTM基礎Ⅰ	68	2	2
実習	歌唱/演奏実技Ⅰ	68	2	2
実習	サウンドアナライズⅠ	68	2	2
演習	アンサンブル基礎Ⅰ	68	2	4
演習	アンサンブル応用Ⅰ	68	2	4
演習	アンサンブル発展Ⅰ	68	2	4
合計		888	28	40

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅠ		授業形態 / 必選	講義	必修		
	学則別表上表記	業界知識Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 全コース						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ☐	非該当 ☒
担当講師 実務経歴							
授業概要							
音楽業界に関わる様々な業種について理解を深めることで、音楽業界の仕組みを学ぶ。							
到達目標							
前期では音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割とコンサート業界、レコーディング業界の仕事情形について学ぶ。							
後期では音楽ビジネスに関わる権利、著作権、印税の仕組み、著作物について学ぶ。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽業界の仕組み① 音楽業界のお仕事～プロダクションの働きについて理解する 音楽業界の仕組み② レコード会社の働きについて理解する 音楽業界の仕組み③ 音楽出版社とJASRACの働きについて理解する
【前期】 4～7回目	イベント・コンサート業界の仕組み イベント・コンサートに関わる各セクションの仕事について理解する コンサート制作の仕事 イベントやコンサート制作会社の働きについて理解する コンサートスタッフの仕事 舞台監督や各業種の仕事情形について理解を深める コンサート関連の技術系の仕事の流れ PA・照明・ローディーの仕事情形について理解を深める
【前期】 8～10回目	業界用語と舞台用語 業界や現場で使われる用語を理解する 音源制作の仕事① CDが出来上がるまでの流れと楽曲発注について理解する 音源制作の仕事② プリプロ～レコーディングの流れを理解する
【前期】 11～13回目	音源制作の仕事③ マスタリングについて理解を深める 音源制作の仕事④ ジャケット制作について理解する 音楽ビジネスの現状 変化する音楽産業とミュージシャンの収入について
【前期】 14～17回目	ここまでのまとめとテスト 前期テスト テストの解説
【後期】 18～20回目	音楽ビジネスに関わる権利 ① ミュージシャンに関わる権利について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ② 著作権について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ③ 実演家とレコード製作者の両方に認められている権利について理解する
【後期】 21～24回目	音楽ビジネスに関わる権利 ④ 原盤について理解する 著作権管理事業の現状 著作権管理事業について理解する JASRACの問題点 JASRACの功罪などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み① CD販売の場合の著作権使用料による印税収入などについて理解する
【後期】 25～27回目	著作者に関わる印税の仕組み ② 動画投稿(共有)における著作権使用料などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み ③ 放送使用における著作権使用料について理解する 著作権隣接権に関わる印税の仕組み アーティスト印税の計算などについて理解する
【後期】 28～30回目	著作権にまつわる問題点 インターネットの普及でばら撒かれる海賊版の氾濫などについて理解する 著作物を利用する方法① ビジネス契約と著作権～「所有権」と「著作権」について理解する 著作物を利用する方法② 著作物の自由利用について理解する
【後期】 31～34回目	ここまでのまとめとテスト 後期テスト テストの解説
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	仕事情形の伝わりにくい業界のため、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしましょう。
備考	HRも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	動画配信ベーシック		授業形態 / 必選	演習	必修	
	学則別表上表記	共同演習Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68)単位時間	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカルコース(ネットシンガー専攻)					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	俳優歴8年。舞台、CM、ドラマ等多数出演。また所属劇団の広報用映像の制作、編集を自身で行うと共に、ゲーム会社のCM編集、YouTuberの動画編集の依頼を受けるなど映像クリエイターとしても活動。その経験を活かし実践指導を行う。					
授業概要						
インターネット上で活動するための撮影、動画編集(Premiere Pro)、演者としてのトークスキル、自己プロデューススキルなどを学ぶ。						
到達目標						
世界の新興大企業のほとんどが配信サービスを持っており、ゲーム実況、雑談、カラオケなど多岐にわたる。自分のパーソナルな強みを探しながら、それを活かせるコンテンツ制作はどんなものかを考え、挑戦する。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	動画配信者、インフルエンサーだけでなく、表現者に求められる考え方
【前期】 4～7回目	演者としてのトークスキルを様々なワークやゲームを通して楽しく身につける
【前期】 8～10回目	SNSマーケティングの入門的なこと、自分自身がコンテンツを作るものとして必要な考え方
【前期】 11～13回目	Premiere Proの基本操作
【前期】 14～17回目	前期の復習・確認 ■前期試験: 簡単な動画コンテンツを1つ作成する
【後期】 18～20回目	演者としてのトークスキルを様々なワークやゲームを通して楽しく身につける
【後期】 21～24回目	Premiere Proの基本操作
【後期】 25～27回目	自分のアイデアを元に動画コンテンツの企画を立案
【後期】 28～30回目	自分で企画したものを撮影
【後期】 31～34回目	1年間トータル復習・確認 ■後期試験: 自分の強みが活かされる動画コンテンツを1つ完成させる
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「演者としてのコミュニケーション能力 / 基礎的な動画編集能力 / 自己プロデュース能力 / 企画から完成品納品までの自己管理能力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	今や誰でも気軽に自分自身がクリエイターになれる時代です。難しく考えず、まずは楽しく挑戦してみましょう。
備考	100円ショップの物など安いもので良いので、有線イヤホンを準備してください。授業中の動画編集作業で使用します。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	セオリー & イヤートレーニング ピッチワークアウトⅠ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■ 音楽アーティスト科 ヴォーカル/ダンスヴォーカルパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	KAN、浜崎あゆみ、林原めぐみなど様々なアーティストのバックコーラスやレコーディング制作に携わる。 23歳の時にアニメセイバーマリオネットact5エンディング「風の詩を聴きながら」でメジャーリリース。 その後ヴォイストレーナーとして多数アーティスト(元生徒はDAIGO、太田在etc)の指導を行う。 近年はハウスバンド歌手として毎週末stage歌唱10年、DISCO DJうらりーな活動2年、演劇ミュージカル出演活動5年。				
授業概要					
音楽の基本的な決まり事を学ぶ「理論」と、音感を鍛える「聴音」の授業です。 理論では正確に楽譜を読み書きする能力を得ること、作曲の為の基礎知識を養うこと、音楽用語の意味を学びます。聴音では音程やリズムを耳で聴き取り、演奏や譜面におこなうことができる能力を得ます。 また、様々なジャンルの音楽の基礎知識を学ぶことにより、音楽人に必要な力も養います。					
到達目標					
・楽譜の読み書きができるようになります。 ・楽器を使わずに、耳だけで音程(音の高低)やリズムを聴き取れるようになります。 ・音楽用語を使用し、他楽器(バンドメンバー)とのコミュニケーションを可能にします。 ・インターバル、スケール、ハーモニー、コード、リズム、におけるベーシックが把握できます。 ・曲の構成を理解して、メロディとコードの関係を深く理解できます。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ウォーミングアップ発声、音符と休符、リズムのトレーニング、メジャースケール。
【前期】 4～7回目	インターバルの紹介、読譜。
【前期】 8～10回目	テンポとリズム、ブレスのメカニズム、音域チェック、FメジャーキーとGメジャーキー。
【前期】 11～13回目	ハモリ、123メロディー発声、タイと付点子音。
【前期】 14～17回目	歌と発声、5度圏、聴き取り(イヤトレ)、ハモリ練習。 ■前期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	1234メロディー発声、16分音符リズムトレーニング、ロングブレス。
【後期】 21～24回目	ピッチトレーニング、数字インターバル、ハモリ練習。
【後期】 25～27回目	12345メロディー発声、リズムチェック、サイエンステスト。
【後期】 28～30回目	ピッチトレーニング復習、インターバル、ハモリチェック。
【後期】 31～34回目	ヒット曲のメロディアナライズ。 ■後期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	理論をマスターして「なぜカッコ良いのか」「どうしてグッと来るのか」といったことが分かってくると、「気持ちをこめる」だけでなく「気持ちを伝える」表現豊かな音楽ができるようになるでしょう。 また、なんといってもミュージシャンは耳が命です。音楽からいろんなアイデアをキャッチできるようになりましょう。 他にも、理論や聴音を学ぶことは、今後の歌唱・演奏や作曲の手助けになります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムヴォーカルの歴史と体系Ⅰ		授業形態 / 必選	講義	選択	
	学則別表上表記	音楽史Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐					
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀年気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画、への楽曲提供なども行なっている。					
授業概要						
・ヴォーカルの為のリズムトレーニング、身体づくり、リズムの歴史を学ぶ。(リズム史＝POPS音楽史) ・ヴォーカルに活かすためのリズム発声～アドリブスキットまで。						
到達目標						
・漠然と歌のメロディーを歌えるのではなく、頭と体でリズムを理解し、コントロールできるテクニックを身に着ける。 ・ジャンルごとのリズムの特徴を学び、歌いまわしのクオリティを上げる。 ・体全体でリズムをキープしながら、瞬時にいかなるヴォーカルアプローチも出来るようになる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽の歴史【ROCK】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【前期】 4～7回目	音楽の歴史【R&B】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【前期】 8～10回目	音楽の歴史【REGGAE】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【前期】 11～13回目	音楽の歴史【MIXTURE】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【前期】 14～17回目	応用編【スキット】スキットとは、リズムのフィールを感じ取り声で表す、コール&レスポンス ■過去前期試験例：筆記試験にて「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	音楽の歴史【BLUES】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【後期】 21～24回目	音楽の歴史【FUNK】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【後期】 25～27回目	音楽の歴史【SOUL】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【後期】 28～30回目	音楽の歴史【JAZZ】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【後期】 31～34回目	1年間トータル復習・確認 ■過去後期試験例：筆記試験にて「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音楽のジャンルについて学んでいく中で、その音楽の成り立ちを知ろうとすると、歴史や時代背景を知る、ということにつながっていきます。リズム強化のための授業ですが、様々なジャンル、歴史について触れ、知ることで価値観も磨いていきます。価値観は表現力につながっていきます。様々な観点から歌唱力向上を目指していきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカルテクニックⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択		
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	R&B,POPSのソロアーティストとして九州、東京を拠点に活動。 ミニアルバム“Darkness into light”をリリースし様々なステージに立つ。 ヴォーカルディレクターとして楽曲提供や様々なアーティストのレコーディングに参加。 プロシンガー・アイドル・KPOP養成所などで講師を勤めている。						
授業概要							
発声のメカニズムを理解し、歌唱に必要なテクニックにつなげる。							
到達目標							
・チェストボイス、ヘッドボイスなど声色それぞれの基礎発声を身につける。 ・発声のメカニズムを理解した上での基礎発声練習を積み重ね、声域を広げる。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	教科書使用(ボイス理論1～4)チェスト開発
【前期】 4～7回目	教科書使用(ボイス理論5～8)チェスト開発
【前期】 8～10回目	教科書使用(ボイス理論9～12)ヘッド開発
【前期】 11～13回目	教科書使用(ボイス理論13以降)ヘッド開発
【前期】 14～17回目	教科書使用(ボイス理論まとめ) ■前期試験:課題曲の歌唱により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の到達度、理解度を確認する。
【後期】 18～20回目	チェストとヘッドのバランス／共鳴作り
【後期】 21～24回目	チェストとヘッドのバランス／共鳴作り
【後期】 25～27回目	ミドルボイス開発
【後期】 28～30回目	ミドルボイス開発
【後期】 31～34回目	基礎発声練習(ミドルボイスの開発・定着) ■後期試験:課題曲の歌唱により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	テクニックだけが大事なものではありませんが、そのテクニックへの理解を深めることにより自由な表現への足がかりとなります。思考のパターンをプロ仕様へと改変していきましょう。
備考	使用教科書「ヴォーカルテクニック」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォイストレーニングⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/ダンスヴォーカルパフォーマー					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀年気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画、への楽曲提供なども行なっている。					
授業概要						
ヴォイストレーニングを通し、正しい発声の仕方、音域の拡張、共鳴のさせ方を学習していきます。 ウォーミングアップの方法・腹式呼吸の習得・表情筋の使い方・母音を正しく響かせる口の開け方など。 また、歌唱の基礎であるチェストヴォイス～ミックスヴォイス～ヘッドヴォイスの声区融合とリズム感も併せて学習します。						
到達目標						
・ストレッチ、筋力トレーニングにより、歌える体を作っていく。 ・様々なスケールを用い、主にチェストヴォイスを鍛えて地声強化。 ・ヘッドヴォイスを学ぶことで、響く声、共鳴を身に付ける。 ・様々な声色(チェストヴォイス、ミックスヴォイス、ヘッドヴォイス)を習得し、歌唱へ反映させていく。 ・相対音感トレーニングにより、音感を高めていく。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ウォーミングアップ編 ～発声に入る前の準備運動～ / ストレッチ・筋トレ・リップロール・ハミング
【前期】 4～7回目	地声、低音強化編 ～地声強化のための発声練習法の取得～ / 喉を開くということ、声帯の動き、体の使い方
【前期】 8～10回目	地声、低音強化編 ～地声強化のための発声練習法の取得～ / 喉を開くということ、声帯の動き、体の使い方、リズムトレーニング
【前期】 11～13回目	裏声、ミックスヴォイス強化編 ～裏声強化のための発声練習法の取得～ / 声の種類について、息のコントロール、後ろ側の響きと前側の響き
【前期】 14～17回目	反復練習 / 地声強化のための課題曲（発声に意識して歌唱してみる） ■過去前期試験例:筆記、発声の実技試験により「練習メニューの理解度、取得度」から到達点を確認する。
【後期】 18～20回目	喚声点攻略編 ～喚声点が見えにくくなるための発声練習法の取得～ / 声の種類について、共鳴移動、声のコントロール
【後期】 21～24回目	喚声点攻略編 ～喚声点が見えにくくなるための発声練習法の取得～ / 声の種類について、共鳴移動、声のコントロール
【後期】 25～27回目	反復練習 / 共鳴移動のための課題曲（音域の広い楽曲の選曲し歌唱の中で共鳴移動を実践する）
【後期】 28～30回目	応用練習 / 様々な声色のための課題曲（別の音域を複数人で歌うことで相対音感も養いつつ、美しいハーモニーに必要な声色で歌唱してみる）
【後期】 31～34回目	総合的反復練習 / 各自課題曲（発声に意識して歌唱してみる） ■過去後期試験例:各自指定された楽曲を歌唱。「総合的な完成度」から到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の3項目の到達度、理解度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	発声とリズムは歌唱の基礎で最も重要な技術です。発声練習は自分の声質を把握し、より良くしていくために欠かせません。 チェストヴォイス(地声)の音域はトレーニング次第で伸ばすことができます。高く歌えないと思っていた楽曲でもトレーニング次第で歌える様になります。また、裏声や低音域をしっかり鍛えることで、歌唱の中で使える音色を多く習得することが可能です。自分の音域や癖をしっかり把握しトレーニングに励み、歌える楽曲の幅を広げましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	DAW/ボーカロイド I		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	DAW・DTM基礎 I		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68)単位時間	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカルコース(ネットシンガー専攻)					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐					
担当講師 実務経歴	幼少の頃から本格的にクラシックピアノを20年間学び、コンクール等で多数受賞。 現在は自身で作詞作曲をジャンル問わず行いながら、鍵盤などで多くの演奏サポートや制作に携わる。 これまでに発表した作詞・作曲作品、またアレンジした楽曲は80曲以上ある。					
授業概要						
作曲・編曲などDAW(Logic Pro)の基礎的な使い方を理解・習得します。 楽曲制作を行う手順を一から理解できる様にします。						
到達目標						
・楽曲制作を行う上での基礎的なDAWの操作の習得。						
・ドラムパターンやコードの打ち込み、そしてサンプル音源の使い方などを覚えて、スムーズな楽曲制作を習得。						
・メロディ、リズム、ハーモニーを元とする基礎編曲の理解。						
・ドラム、ベース、ピアノ、ストリングスなどのMIDIノート打ち込みを習得する。						
・ボーカロイドの操作を習得。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	DAWについて、Logicについて。 Logicの操作方法、基礎的な使用方法について。
【前期】 4～7回目	Drumパターンの打ち込み(MIDIノート)、クオンタイズについて。 Drum Fillの作り方、打楽器について。
【前期】 8～10回目	鍵盤楽器の打ち込み。アルペジオ、コード打ち込みについて。
【前期】 11～13回目	ベースの打ち込み。ベースのパターンについて考える。 楽曲制作① 1分程度の楽曲制作。
【前期】 14～17回目	楽曲制作①提出、フィードバック。 メロディの打ち込みについて。 ミキシング・マスタリングについて①
【後期】 18～20回目	ストリングス・ブラス系の打ち込みについて。 弦楽器・管楽器の種類についての理解。
【後期】 21～24回目	シンセサイザーの使い方、打ち込みについて。 オートメーション、音色の作り方。
【後期】 25～27回目	楽曲制作② 3分程度の楽曲作成。 ボーカロイドの使用方法について。
【後期】 28～30回目	楽曲制作②フィードバック。 ボーカロイドの歌わせ方。ミキシング、マスタリングについて②
【後期】 31～34回目	コンプ・EQ・リバーブ等の使用方法について理解を深める。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	楽曲制作は音楽業界の中でも中心的な存在です。最初は難しく感じるとはいますが、苦手意識を持たずフラットな気持ちでDAWの様々な使い方を勉強しましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	コーラスラインⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏実技Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	これまでCMへのオリジナルソングの提供、ラジオ、ドキュメンタリー番組等に出演。 その後渡米し現地ミュージシャンとセッションを重ねる。 福岡、東京にて音楽イベントに多数出演。動画制作への楽曲提供なども行う。ピアノでの受賞経験も多数。 メジャーアーティストへのレッスン提供や、後進の育成にも励みデビューした生徒も多数。				
授業概要					
この授業では学生達が声楽技術を身につけハーモニーを理解し、コーラスワークに対する技術・知識の習得を行います。 複数人でメロディーを歌唱する際の耳と発声を磨き、アンサンブル歌唱のスキルを向上させます。					
到達目標					
・ハーモニーの概念を理解し、他歌手との調和を築く為の技術を習得する。 ・音を聴き分ける能力を養い、和音や度数を理解してハーモニーを歌唱出来る様になる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ユニゾン・スケール・3度ハモリからのコードトレーニング(M・m・sus4) 課題曲①邦楽パート音入れ
【前期】 4～7回目	ユニゾン・スケール・5度からのコードトレーニング(aug・dim・add9)・楽曲Keyチェンジ対応 課題曲①
【前期】 8～10回目	オクターブ発声・楽曲分析(小節・プレス・アクセント・ポルタメント)・コードトレーニング(△7・7) 課題曲②洋楽パート音入れ
【前期】 11～13回目	母音・子音歌唱・ペア練習 トランスポーズ対応トレーニング・8ビート・16ビート 課題曲②
【前期】 14～17回目	前期テスト対策。 ■前期試験:発声に関する用語、仕組み、ハーモニー、リズムの到達度の確認。
【後期】 18～20回目	イントネーション・コード進行の理解～アドリブ・フェイク練習 課題曲③パート音入れ
【後期】 21～24回目	シャッフル・イーブン・グルーブ チェスト・ミドル・ヘッドヴォイス確認 課題曲③
【後期】 25～27回目	楽曲の1フレーズを3拍子・4拍子で歌唱・スケール・コードトレーニング 課題曲④発音
【後期】 28～30回目	それぞれの表現・抑揚と発音 歌いまわしと音の重なり 課題曲④
【後期】 31～34回目	通年のまとめ。発声、即興、ハーモニー、リズムの到達度の確認。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「発声に関する用語、仕組み/発声 / リズム」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ソロパフォーマンスでは習得出来ないヴォーカルグループで作り出すハーモニーを体感していきます。 同時にGt.Key.Baで演奏するコードを声で体感していきます。リードボーカルでの役割と支えになるコーラスの役割を経験し、グループでの表現やパフォーマンスを学んでいきましょう！
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	歌唱実習Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅠ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ダンスヴォーカルパフォーマー					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	R&B,POPSのソロアーティストとして九州、東京を拠点に活動。 ミニアルバム“Darkness into light”をリリースし様々なステージに立つ。 ヴォーカルディレクターとして楽曲提供や様々なアーティストのレコーディングに参加。 プロシンガー・アイドル・KPOP養成所などで講師を勤めている。					
授業概要						
バラードやアップテンポといったテーマに合わせて自分で選んだ曲を歌い、自分が歌うだけでなく、他者の歌唱を聞いて、見て、【歌う】【聞く】【考える】のサイクルで授業が進んでいきます。 自ら選んだ楽曲を歌いこみながらテクニックをきめ細やかに、また感情表現をより深めながらシンガーとしての自らをワークショップスタイルの中で確立していきます。						
到達目標						
自ら選曲した一つの楽曲の中で、音程、リズム、などの観点から『基礎的な技術』を、ダイナミクス、魅せ方(パフォーマンス)などの観点からは『技術的な表現力』の取得をしていきます。そこに、同じ楽曲を数週間歌い続けていく中で考察し、深めた、その楽曲への自分的解釈を足すことで『自分の歌』にできるシンガーを目指します。 また、自分の歌唱を客観視できるようになるため、他者の歌を分析することで、聞く力、気づききっかけを養っていきます。 ここで得た『歌唱力』を用いて「人に届く歌」が歌えるようになること、それが「オーディションで結果を出すこと」「ライブでお客様に楽しんでもらうこと」へと繋がるようにサポートしていきます。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【自由曲①(得意ジャンル)】持ち味、武器となる部分を見つけていきます。
【前期】 4～7回目	【自由曲②(苦手ジャンル)】苦手な分野にトライす、苦手克服を目指します。
【前期】 8～10回目	【自由曲③(ジャンルレス)】ジャンルに囚われず、今、自分にとって必要な要素を取得することを目的として選曲していきます。
【前期】 11～13回目	【自由曲④(完全自由曲)】ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。
【前期】 14～17回目	【自由曲(アドバイスの必要な楽曲)】テストに向けた候補曲や、LIVE WEEKでの歌唱曲など、今アドバイスが欲しい楽曲を選曲します。 ■過去前期試験例:(ジャンルのみを指定)課題曲の歌唱により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の到達度を確認します。
【後期】 18～20回目	【自由曲⑤(洋楽)】言語の壁はもちろんのこと、リズムや表現方法などが全く日本の楽曲と異なります。どんなジャンルでも歌えるシンガーになるために様々な楽曲への歌唱のアプローチ法を考察します。
【後期】 21～24回目	【自由曲⑥(洋楽)】言語の壁はもちろんのこと、リズムや表現方法などが全く日本の楽曲と異なります。どんなジャンルでも歌えるシンガーになるために様々な楽曲への歌唱のアプローチ法を考察します。
【後期】 25～27回目	【自由曲⑦(完全自由曲)】ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【後期】 28～30回目	【自由曲⑧(完全自由曲)】一年間の集大成となるような難易度の曲を選曲します。憧れていたけど歌ってこなかった曲、自分にとって少し難易度の高い曲を選ぶことで現在地を確認します。
【後期】 31～34回目	【自由曲(①～⑧より選択)】これまで歌い込んできた曲をもう一度歌うことで、前期の自身と比べることができ、より深く自身の歌唱力と向き合っていきます。■過去後期試験例:自由曲の歌唱により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の到達度を確認します。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の4項目の到達度を総合的に評価します。
学生へのメッセージ	歌うことを職業にしていくためには、技術は絶対に必要になってきます。この技術を取得し続けるためには、自分で課題を見つけ、自分で課題を解決していく力を身につける必要があります。その一連の流れが一人できるようになるための練習をこの授業の中で学んでいきます。 まずは気づくこと。知ること。そこから始めていきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブスタイル実習Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択	
	学則別表上表記	アンサンブル基礎Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀年気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画、への楽曲提供なども行なっている。					
授業概要						
課題曲に内包されているテクニック、リズム、ハーモニーなどの類例を自らの経験値として取り込みながらバンドアンサンブルについて理解を深める。 3週で楽曲が変更。ライブイベントへ向けてのリハーサルも兼ね、パフォーマンス力、ステージング力の向上をもはかっていく。						
到達目標						
・ボーカルだけでなく各楽器(Gt. Ba. Dr.)とのアンサンブルを学ぶ。 ・曲の理解、バンド内のコミュニケーション、ボーカル以外の音の聴き方、リズムの取り方など 楽器の音、バンドアンサンブルにおける自分の音をしっかりと聞き分け、音楽の楽しみ方を学び、 バンドとして一つの音を奏で、パフォーマンスも含めアンサンブルにつなげる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	1曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 4～7回目	2曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 8～10回目	3曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 過去3曲の中からLIVE WEEKIに向けてチーム決定。
【前期】 11～13回目	LIVE WEEKIに向けてパフォーマンスやクオリティーを上げるためのリハーサル週間
【前期】 14～17回目	4曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 ■前期試験：課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	5曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 21～24回目	6曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 25～27回目	7曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 28～30回目	8曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 後期4曲の中からLIVE WEEKIに向けてチーム決定。
【後期】 31～34回目	LIVE WEEKIに向けてパフォーマンスやクオリティーを上げるためのリハーサル週間 ■後期試験：課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アンサンブルは音楽活動をするうえで避けては通れない技術になります。楽曲の理解、バンド内コミュニケーション、全体のサウンドにおける自分の歌の位置づけを知ることは歌のクオリティーを上げるために非常に重要なことです。ボーカル以外の楽器の音を聴き分けることもアンサンブルを上達させるために必要になります。この授業を通して、楽曲の聴き方、音楽のより深い楽しみ方を学び、人と人とが奏でる音楽・アンサンブルに繋がっていきます。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブパフォーマンス実習Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択	
	学則別表上表記	アンサンブル応用Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀年気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画、への楽曲提供なども行なっている。					
授業概要						
課題曲に内包されているテクニック、リズム、ハーモニーなどの類例を自らの経験値として取り込みながらバンドアンサンブルについて理解を深める。 3週で楽曲が変更。ライブイベントへ向けてのリハーサルも兼ね、パフォーマンス力、ステージング力の向上をもはかっていく。 ※アンサンブル基礎Ⅰの二コマ目として実施						
到達目標						
・ボーカルだけでなく各楽器(Gt. Ba. Dr.)とのアンサンブルを学ぶ。 ・曲の理解、バンド内のコミュニケーション、ボーカル以外の音の聴き方、リズムの取り方など 楽器の音、バンドアンサンブルにおける自分の音をしっかりと聞き分け、音楽の楽しみ方を学び、 バンドとして一つの音を奏で、パフォーマンスも含めアンサンブルにつなげる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	1曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 4～7回目	2曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 8～10回目	3曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 過去3曲の中からLIVE WEEKIに向けてチーム決定。
【前期】 11～13回目	LIVE WEEKIに向けてパフォーマンスやクオリティーを上げるためのリハーサル週間
【前期】 14～17回目	4曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 ■前期試験：課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	5曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 21～24回目	6曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 25～27回目	7曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 28～30回目	8曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 後期4曲の中からLIVE WEEKIに向けてチーム決定。
【後期】 31～34回目	LIVE WEEKIに向けてパフォーマンスやクオリティーを上げるためのリハーサル週間 ■後期試験：課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アンサンブルは音楽活動をするうえで避けては通れない技術になります。楽曲の理解、バンド内コミュニケーション、全体のサウンドにおける自分の歌の位置づけを知ることは歌のクオリティーを上げるために非常に重要なことです。ボーカル以外の楽器の音を聴き分けることもアンサンブルを上達させるために必要になります。この授業を通して、楽曲の聴き方、音楽のより深い楽しみ方を学び、人と人とが奏でる音楽・アンサンブルに繋がっていきます。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカリストスタイルⅠ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル発展Ⅰ		年次	1年次
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀年気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画、への楽曲提供なども行なっている。				
授業概要					
様々な音楽スタイル(JAZZ/BLUES/POP/R&B/FUNK/HR等)に含まれるリズム感、グルーブ感、抑揚などを自然に体で表現できるように自らの歌唱へ取り込んでいきます。					
到達目標					
・ノリ、アクセント、より体感するための体の動かし方を身につける。 ・リズムを理解し、楽曲と自身がグルーブする感覚を取得することで、自由度の高いライブパフォーマンスを身につけていく。 ・リズムとプレスコントロールを結びつけることで、歌いやすさへつながら歌唱力向上を目指す。 ・多様なジャンルのルーツ、歴史を理解し、価値観を磨くことで表現力の幅と可能性を広げていく。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	課題曲①【ROCK】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【前期】 4～7回目	課題曲②【R&B】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【前期】 8～10回目	課題曲③【レゲイ】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【前期】 11～13回目	課題曲④【ミクスチャー】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【前期】 14～17回目	トータルチェック(これまでの課題曲で培った「発声・リズム・表現力・ポイント」を確認する) ■前期試験:課題曲の歌唱により「音程/リズム/ダイナミクス/表現力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	課題曲⑤【ブルース】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【後期】 21～24回目	課題曲⑥【FUNK】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【後期】 25～27回目	課題曲⑦【ソウル】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【後期】 28～30回目	課題曲⑧【JAZZ】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【後期】 31～34回目	トータルチェック(これまでの課題曲で培った「リズム・グルーブ・表現力・ポイント」を確認する) ■後期試験:課題曲の歌唱により「リズム/ダイナミクス/表現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程/リズム/ダイナミクス/表現力」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音の高低(音階)/声を出すタイミング(リズム)で成り立つ歌。半分をしめるリズムについて、ヴォーカリストの観点で大切な要素を学びましょう。リズム感というものは、パフォーマンスだけでなく、歌の歌いやすさへつながっていきます。しっかりと理解としかりと体を動かしながらの実践を何度も繰り返すことで力がついていきます。めげそうになる瞬間もあるかもしれませんが、コツコツとやっていきましょう。
備考	